

広報よろん

11月号

2014 VOL. 300





第一回沖縄・与論ヨットレース



◆9月14日(日)「午前8時、沖縄伊江島沖を四艇のクルーザーヨットが一斉にスタートしました」と大会運営スタッフの外洋沖縄事務局長徳田氏(父は本町朝戸出身)から電話が入り、レース実行委員や運営スタッフが与論港コースタリゾートで受け入れ準備を始めた。

第一回沖縄・与論ヨットレースは、与論港コースタリゾートに陸電・給水施設が一部完成したことによる記念事業だ。宜野湾港マリナから与論島までの距離は約60マイル(11km)と距離が長いため今回は伊江島を経由したコース設定となった。大会当日は風が弱く途中でレースは中止を余儀なくされたが、参加艇は与論島を目指して、エンジン使用の機走に変更した。残念なことに一艇がエンジントラブルでリタイヤしたため、本部艇と三艇のヨットが与論島に到着した。

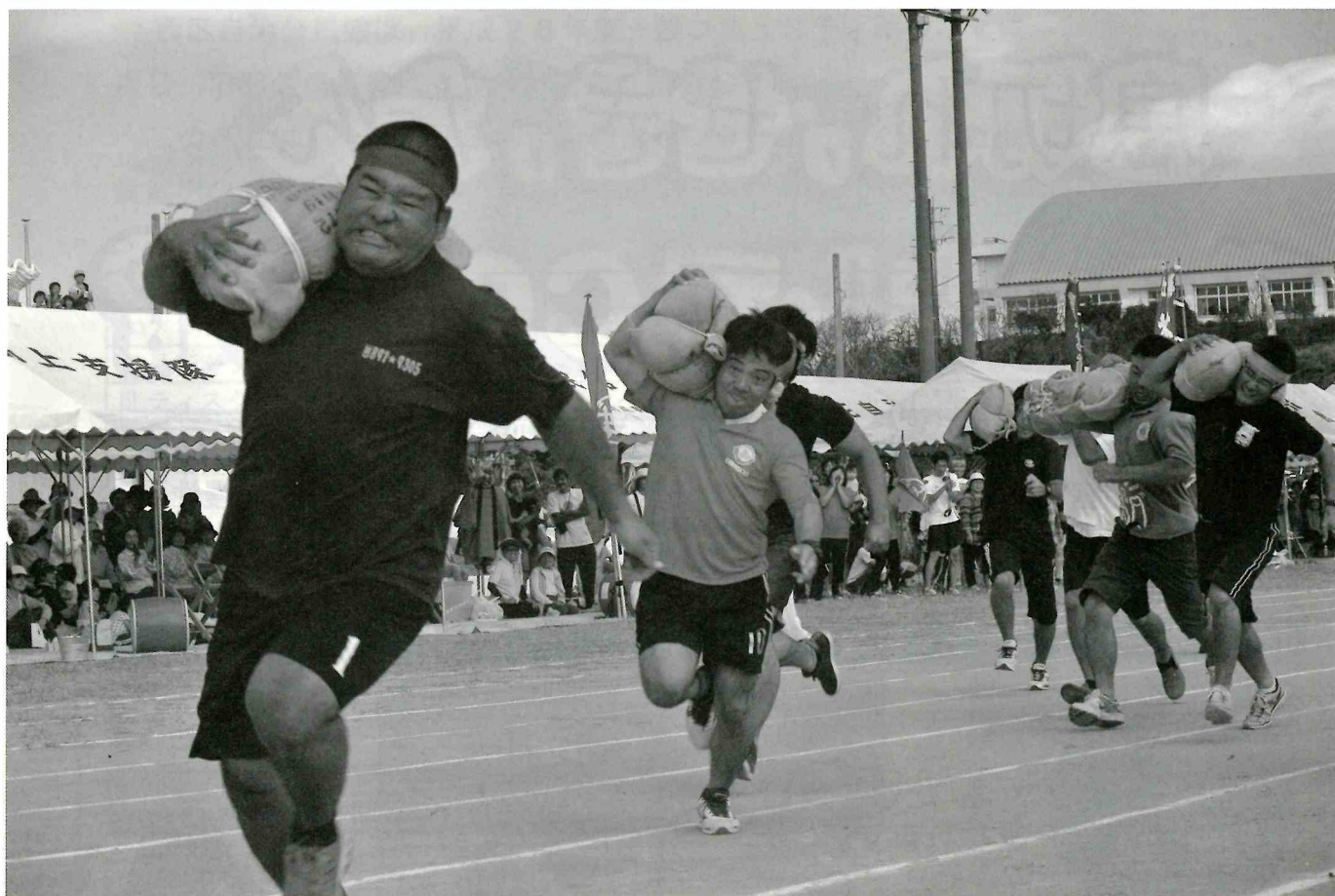


2014第一回沖縄・与論ヨットレース実行委員会事務局

ヨットの醍醐味を満喫した。表彰式とパーティーは、プリシアリゾートホテルのサンセット広場で行われた。参加したヨットマンから与論島の海とエイサーや与論献奉などのもてなしに感激の言葉をもらい、ヨット中継基地(与論港コースタリゾート)の重要性と可能性をあらためて実感した。

※大会実行委員会では次回大会に向けた準備を進めています。今後ともご協力をお願い申し上げます。なお、今回の沖縄・与論ヨットレースの特集記事が「舵社」12月号で掲載されますのでご覧下さい。





絆の団結で輝く汗

平成26年度第50回町民体育大会を、絆の団結で輝く汗の大会スローガンのもと10月19日（日）、清々しい天候の中で三年ぶりに開催することができました。

大会は小学生から60代の選手による百メートル走をはじめ、綱引きや玉入れ、リレーなどそれぞれの選手が日ごろの練習の成果を十分に出し切りました。

成績については、集落の部で東区集落、校区の部で茶花校区が優勝と発表されましたが、採点の集計に誤りがあり、那間校区が優勝となりました。町民の皆様方に多大なるご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。今後はこのようなことが起こらないよう細心の注意を払い運営に努めて参ります。

選手役員の皆様、お疲れ様でした。ご協力誠にありがとうございました。





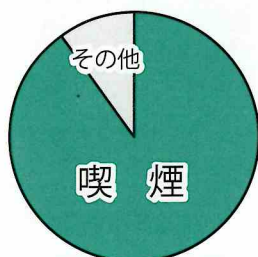
息切れ、せき、たん ひよっとしてCOPD?

～COPDは喫煙等による肺の慢性的な炎症で呼吸困難になる病気です～

COPD (慢性閉塞性肺疾患) は、喫煙が主な原因の「肺の生活習慣病」です。慢性気管支炎、肺気腫などの病気が含まれます。禁煙によって発症を予防し、また進行を阻止することができる病気です。



原因の 90% 以上は喫煙です



別名「たばこ病」とも言われます。

こんな症状はありませんか？

●風邪でもないのに咳や痰がつづく



●身体を動かすと息切れを感じる



多くの方が COPD で亡くなっています

鹿児島県の COPD による 死亡率 (人口 10 万人あたりの 死亡者数) は全国ワースト 4 位 です。(平成 24 年)

少しでも早い段階で COPD を発見し、適切な治療を行うことで、健康状態の悪化と日常生活の障害を防ぐことができます。気になる方症状がある方は、早めに医師に相談しましょう。

COPD が進行するとどうなるの？

COPD が進行すると、少し身体を動かすだけでからだに十分な酸素が取り入れられない状態 (呼吸不全) が起きるようになります。重症化すると在宅酸素療法が行われるようになり、心不全などで死に至ることもあります。

●きつい咳が慢性化します
咳や痰がひどくなり、慢性化します。緩い坂道で息切れを起こします。体重減少、食欲不振などをきたす場合もあります。



●平地でも、息切れします
数分間、平地を歩くと、息継ぎのため休まずにはいられません。少し身体を動かすだけで、息切れするようになります。



●酸素吸入が必要になります
呼吸不全が進行すると、外出には、携帯酸素が必要になります。

●心不全などで死に至ることもあります。



COPD は禁煙で予防できる病気です！





西区自治公民館は、平成26年度一般コミュニティ助成事業により、下記の備品を宝くじの助成金で整備しました。

この事業は、一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入財源として実施しているコミュニティ助成事業です。（総務企画課）



備品名	数量	備品名	数量	備品名	数量
エアコン	2	ガス炊飯器	1	玄関先外灯	1
液晶デジタルテレビ	1	クーラーボックス	1	天井扇	2
BLディスク	1	プリンター	1	ワンタッチテント	3
電子レンジ	1	アルミパイプ椅子	70	ヨド物置（基本棟）	1
ガステーブル	1	平机	1	ヨド物置（追加棟）	1
クリーナー（掃除機）	1	折たたみテーブル	8		



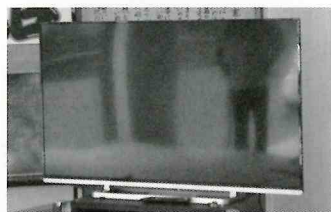
BLディスク1、電子レンジ1、ガステーブル1、クリーナー1
ガス炊飯器1、クーラーボックス1、折りたたみテーブル8



玄関先外灯1



エアコン2



液晶デジタルテレビ1



プリンター1



アルミパイプ椅子 70



平机1



天井扇2



ワンタッチテント3



ヨド物置（基本棟）1、ヨド物置（追加棟）1





てんぷら油から
バイオディーゼル燃料

島の人間力 川畑 博樹



てんぷら油を燃料へ



てんぷら油で飯が食えるのか？

「100リットルの天ぷら油から99リットルの燃料ができますよ」。質問に応える顔に自信が溢れていた。

三年前、事業開始のチラシを見たときは、商売として成り立つのか、天ぷら油で飯が食えるのかと思っただけ。そこで失礼は承知の上で事業として成り立っているのか聞いてみた。「実は天ぷら油はメインの業務ではないんですよ。事業の核となるのは、与論と沖永良部島の医療廃棄物なんです」。予備知識もなく天ぷら油の取材を想定していたので出鼻を挫かれた形となった。

与論町の一般家庭から出る植物油の廃油は一月でおよそ二千リットルあるらしい。そのうち回収しているのは百リットル。一般家庭用の廃油は製品率が97%だというから97リットルの燃料ができる。軽油一リットル180円として月一万七千円では飯は食えないなどと銭勘定をしていたら、入り口のドアがガラガラと音を立てた。そこには杖を付き腰の曲がったおばあちゃんが、天ぷら油を手にして立っていた。

「ほんとにありがたいですね。バイオディーゼル燃料からはそんなに利益はないですが、ゴミが資源になることを知ってもらえればいいですね。」
バイオディーゼル燃料は、軽油で走る車や農業機械・ボイラーなど使用範囲は広いですよ。平成24年には相次ぐ台風襲来により燃料不足になりましたが、バイオディーゼル燃料を使ったお客様から感謝の言葉をいただいたときは嬉しかったですね。そうそう与論町のゴミ収集車もバイオディーゼル燃料で走っ





てんぷら油から
バイオディーゼル燃料

島の人間力＝川畑 博樹



てますから。価格も安いので与論町にも貢献してますよ。このところは強調して下さい」(笑)。

ゴミは宝の山だ！

「与論に戻ってきたのは、東北大震災で会社の業績が悪化したからなんです。東京で産業廃棄物の処理会社で営業をやっていたんですが、給与の30%削減の提示がありそれで与論に帰ることを決心しました。しばらくは退職金と失業保険でぐらぐらしてたんですが、経験を活かして産業廃棄物の輸送事業を立ち上げたんです。環境問題からこの事業を始めたのではなく、純粹にビジネスとして考えています。たとえば東京の三菱や東京電力のビルありますよね。そこから出るゴミは全てリサイクルされています。紙から生ゴミまですべて。ゴミは燃やしたらゼ口、ただのゴミ。リサイクルすれば宝の山ですよ」

ビジョン

「そうですね、近い将来法人化して事業を広げ従業員を2・3人雇いたいですね。対象エリアも奄美大島まで拡大したいです。自分が扱える廃棄物は、郡内の業者の中でも一番品目が多いんですよ。沖縄への輸送許可も取つてあるので、他の業者と比べて輸送コストの削減はできますよ。強みがあるので勝負できると思います」

与論町の環境とゴミ問題について

ゴミを資源として活用するためには、徹底してゴミを分別しなければダメなんです。分別したゴミを適正にリサイクルすればいいんです。そうすれば焼却炉の負担も軽くなるし、環境問題の改善も図れると思います。極端な例なんですけど蛍光灯ありますよね。今でも土の中に埋めてるひとがいるという話を聞きますが、持ってくればこちらで処分しますよ。(笑)

取材雑感

ピャーヌパンタの麓にあるアカギの下に『使用済み天ぷら油回収所』と書かれた看板が立っている。いつか看板の主と話をしてみたいと思っていたが、今回取材という形で実現した。

ところで、人口が減少し経済が縮小していく中で、自ら業を起すことは至難の業である。普通は学校を卒業したあとと企業に務めるのが常であり、起業することは一般的ではない。しかし、昭和の離島観光ブームの頃、島には観光業を始めとして一儲けしようと思ふ若者がたくさんいた。時代背景が違ったために単純に比較はできないが、今の若者は押し並べて消極的で堅実だ。20代や30代の町議も出なくなつて久しい。

そのようなとき、天ぷら油である。「仕事が無ければ自分で作ればいいんですよ」、淀みのない答えが50分間続いた。自分の仕事に対する経験と知識、そして自信が無ければ言えることで

はない。

現在与論町における雇用状況は、このところ新たな企業進出もなく頭打ちの状況だ。そうしたなかで、川畑氏のように事業を立ち上げ継続して行くことは島の活性化を促進する力となる。

農業・漁業・商工業等、視点を変えればまだまだ新規起業の余地はあるはずだ。

◆燃料製造装置・意外とシンプルだ



会社概要

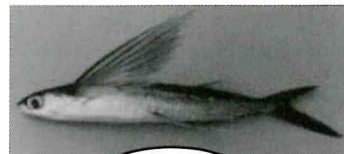
1. 会社名
ヨロン環境保全
2. 所在地
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花913-1
Tel & fax 0997-97-2170
3. 代表者
川畑 博樹
4. 設立年月日
平成24年3月1日
5. 事業内容
廃棄物処理業
バイオディーゼル燃料製造販売業



◆ 食材紹介 サガマー（トビウオの一種） ◆

与論で捕れる小型のトビウオの一種です。トビウオの子どもに見えますが、この大きさで成魚です。唐揚げや、南蛮漬けにして食べられます。

サガマー

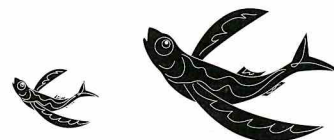


トビウオ

季節のレシピ紹介

サガマーの南蛮漬け

「ゆんぬのおいしいごはん」より



材料

サガマー 300g
玉ねぎ 小1個
青パパイヤ 1/4個
片栗粉 適宜
漬け汁 酢 1/2カップ
砂糖 大さじ4
しょうゆ 大さじ2
赤唐辛子 適宜（好みで）

作り方

1. 付け汁の調味料と種を除き小口切りした赤唐辛子を鍋に入れ、一煮立ちさせる。
2. パパイヤは皮をむいてせん切りにし、固めにゆでる。
3. 玉ねぎ、にんじん、ピーマンはせん切りにし、玉ねぎは水でさらしておく。
4. サガマーに片栗粉をまぶし、カラッと揚げてすぐに1に入れ、2と3の材料をあわせる。



～「ゆんぬわくわく地消拡大推進協議会」紹介～

ゆんぬわくわく地消拡大推進協議会は、漁業協同組合、JA女性部、食生活改善推進員連絡協議会、生活研究グループ連絡協議会、JAあまみ与論事業本部、役場等の団体で構成され、地産地消を基本とした健康で豊かな食生活の普及・定着を図ることを基本理念とし、ゆんぬの伝統的な料理の推進、地域産物の活用法の検討など食に関する情報提供・啓発活動に努めています。昨年開催された第29回産業まつりでは里芋の保存方法紹介や信田風里芋ロールの試食・レシピ紹介を行いました。

「第29回産業祭」信田風里芋ロールの試食



【問い合わせ先】
与論町食育推進計画作業部会事務局
町産業振興課 担当：加藤

Tel 0997-97-3111



第68回鹿児島県民体育大会

第68回鹿児島県民体育大会カヌー競技が9月21日（日）、伊佐市菱刈カヌー競技場で開催された。

与論女子チームは三位入賞を果たし、男子チームも決勝レースに進出、四位と健闘した。

先に行われた第55回大島地区大会で男女W優勝を飾った与論チームは、県民体育大会に大島地区代表としての参加となった。チーム

のメンバーは県大会に向けて、早朝練習を含めた海上での練習と地上での筋力トレーニングなどを積んで大会に挑んだ。大会当日は小雨の降るなかで競技が行われた。

開会式では大島チーム代表として、竹村佐知子選手がユーモア溢れる力強い選手宣誓で会場を沸かせた。レースは普段練習している艇とは大きく違い、使用するパドルの長さもかなりの差があり戸惑いがあつたが、厳しい練習で培ったチームワークで心を一つにして漕いだ。与論チームは男女ともに順調に予選レースを勝ち上がり決勝レースに進んだ。会場には鹿児島県民体育大会をはじめ多くの与論関係者の方々

が応援に駆けつけた。大きな声援

を背中に受けて決勝レースでも与論パワーを出し力強いパドルさばきで懸命にゴールを目指した。女子の決勝レースは大混戦となり、一位から三位のタイム差が一秒以内の僅差の大接戦となった。結果は、応援に来て頂いた与論関係者の大きな声援が力となり女子チームが三位、男子チームが四位と健闘した。

多くの方々のご支援を頂き県大会の決勝レースに出場できたことに感謝しながら、来年は男女とも県大会初優勝を目指して練習を積んでいきたい。

（与論カヌー競技連盟 町岡安博）



9/8与論十五夜踊り

旧暦の8月15日にあたる9月8日に与論十五夜踊りが開催された。（与論十五夜踊りは、毎年旧暦3月8月、10月の15日に、与論町城の地主神社に奉納される）

一説によれば、花城世之主が三人の息子たちに、それぞれ、琉球、大島、大和の踊りを調べさせ、これらの踊りを組み合わせて永禄4年（1561年）に創始したという。この踊りは、嶋中安穩、五穀豊穡の祈願（雨乞い）の踊りである。

踊りは一番組、二番組によって、狂言や能から取材した勇壮な大和風の踊りと、優雅な琉球・奄美・与論の手踊りが交互に演じられる。（昭和46年、町の無形民俗文化財の指定を受け、平成5年12月13日、国の重要無形民俗文化財の指定を受けている）

今回は県外の大学生が多く訪れており、観光客代表の祝杯を回しながら初めての体験に感激していた。終盤には旧暦8月15日限定で行われる『獅子舞』で会場が大いに盛り上がったあと綱引きが行われた。この綱引きの最後は、ちぎっ

た縄でお互いの体を叩きあつて無病息災を祈る。

最後は島のユガブウを祈願して全員でカチャーシーを踊ると、参加者の笑顔に包まれながら、十五夜の夜は更けていった。

※次回は旧暦の10月15日、新暦12月6日に開催される。





バンブー竹のユンヌ今昔

《古里 竹 盛産》

◆ヤギンクス花を作ってハワイへ行く

グラジオラスのことを与論語では「山羊の糞花」と呼び、畑を荒地地になっている怠惰農家の指標植物であった。グラジオラス球根の下には山羊の糞のような黒い小粒の子球根が着き、その球根のこぼれ種からお花畑が広がっていくので荒地地に見えるのだ。当時は花を栽培してお金にする意識はなかったようである。

初めての農業視察研修で和泊町農業研修センターに行った。掲げられた標語、「上農は草を見ずして草を取る中農は草を見て草を取る下農は草を見ても草を取らない」を目にした。職員にどういう意味ですかと聞いたら、「百合の球根畑を見たら解る」と言われた。なるほどのワイタンデエイと納得した。その当時は手で取っていたと思っていたが、除草剤を使っていたのであった。農業の先進地と言われるだけあって、圃場整

備から耕作している作物やら農業機械は真似のできないくらい立派であった。与論は10年から15年遅れていると聞かされてきた。同じ地域の条件のなかで生きているのにと悔しい思いがした。先進地に学びたい一心だった若い頃を懐かしく想い出している。

昭和55年7月、飛行場勤務から産業課に異動通知があつて、辞令交付のあと「勉強のため知名町からヤギンクスバナを導入してある、それを掘り取って種を増やしてくれ」と引き継ぎがあつた。掘り取りに行った畑は雑草（ノードキ）に覆い尽くされ、どこにもグラジオラスの痕跡は見られなかった。

技連会の協力を得て、一週間ぐらいかかってコンテナ3個分の球根を掘り取った。山羊の糞のような小粒の種も残さずに頑張つて拾った。最初の日、役場に帰って来て「今日は働いた気がする」とつぶやいたら、課長に褒められたので、俄然やる気

が出たことも懐かしい。

グラジオラスを皮切りに、菊やスターチス、リアトリスなども次々と試作導入されていき、寒小菊でやっと儲かる農家ができてきたが、花き専業農家が育つまでに10年ぐらいはかかっただろう。

当時、花の振興会はサンセベリア（虎の尾）の集荷組合として結成されていたが、発展解消し、新しもの好きな花農家が集まつて花き振興会を結成するこゝとができたことで弾みがついた。合言葉は「グラジオラスを作ってハワイへ行く」だった。一村一品運動が全国的展開されていた時勢でもあつた。

グラジオラスが何とか定着し、もつと儲かる花を試作しよう、私も一緒に頑張って大輪の菊（天寿）に挑戦し、ビニールハウスなどの施設導入で借金返済に苦労したが、先進農家の努力が実ってなんとか寒小菊の産地として認められるようになった。その褒美に優秀農家とともに

に海外（台湾）研修の夢も叶えることができた。

あれから30年余りが過ぎた今、与論農業の経営形態はほぼ確立した気がしているが、にわかには農業後継者不足の課題に直面している。それを見越して新規就農に対する農業施策が展開されている今こそがチャンスだ。発想の転換をして勇気をだして取り組めば、規模拡大や経営の合理化ができる時代がきている。TPPに勝てる農業経営でなければどっちみち生き残れないだろう。もうよせ！サラリーマン志向。先進地農業を目指す新世代の若者の島おこしに期待したい。





7月7日(月)、全国社会を明るくする運動強調月間にあたり、法務大臣と県知事からのメッセージが、保護司の大田英勝さん、町政枝さん、松井村悦さんから、南政吾町長へ伝達されました。

社会を明るくする運動は、犯罪や非行のない明るい社会を築くことを目的として、法務省が主唱する全国的な運動です。

ますます住みよい与論町の町づくりを目指して、町民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



“社会を明るくする運動強調月間” 法務大臣・県知事メッセージ伝達式

人権擁護委員伝達式

10月20日(月)、人権擁護委員の伝達式が与論町役場で行われました。

三年三ヶ月にわたり、人権擁護委員を務めた箕作和香代さんへ感謝状が、また新しい人権擁護委員として竹真弓さんへ南政吾与論町長から委嘱状が伝達されました。

人権擁護委員とは、日常生活の中で人権尊重思想の高揚を図るとともに、人権侵害による被害者を救済し、人権を擁護していくという考えから設けられた制度です。

与論町の現在の人権擁護委員は三名。岩村中里さん、岩村安峰さん、そして竹真弓さんです。箕作さんのこれまでの功績に敬意を表するとともに、人権擁護委員の方々のますますのご活躍を祈念いたします。



竹真弓さん



箕作和香代さん

戸籍の窓

10月

※婚姻、出生、死亡とも掲載承諾を頂いた方のみを掲載しています。(敬称略)

お誕生おめでとうございます

(氏名・保護者・地区)

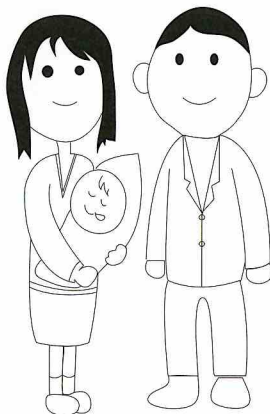
9月届出分

関糸 千帆 将吾 茶花
裾分 結香 大喜 茶花

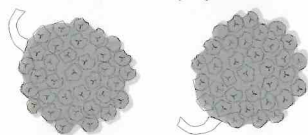
重 愛翔 まなと 満郎 立長
竹岡 みつき 直紀 東区

10月届出分

嶺島 蒼侍 照和 茶花



アダンの実



ひとの動き (平成26年10月末現在)
人口 5,433人 (男 2,638人・女 2,805人) ● 2,516世帯

9・10月分 ● 出生 7人 ● 転入 36人
● 死亡 13人 ● 転出 19人



ご冥福をお祈りします
(氏名・享年・地区)

9月届出分

益山 政喜久 88歳 城

白尾 キク 84歳 朝戸

山田 キクノ 82歳 茶花

富 千代 98歳 茶花

10月届出分

港 當悦 87歳 立長

本 高里 85歳 朝戸

山本 ウメ 95歳 那間

山下 博丸 88歳 那間

高野 榮子 95歳 東区

堀 力雄 80歳 城

Happy Wedding

いつまでもお幸せに

(氏名・地区)

10月届出分

向井 輝喜 茶花

川口 裕望香 茶花

今月の表紙

▲ヨット 撮影・杉田 恭宣

沖縄・与論間で初めておこなわれたヨットレース。

当日は風が弱く、レースは不成立となりましたが、集まった町民の皆さんを対象に『体験クルーズ』がおこなわれました。

私たちの与論島をバックに貴重な体験の様子を収めました。





広報 よろん

2014. 11 VOL. 300



詩歩さん

B&G 前「アイギ浜」

死ぬまでに行きたい世界の絶景 日本編 与論島

最近、雑誌やテレビで、世界の絶景、が取り上げられ、ちよつとしたブームとなっている。

ブームのきっかけを作ったのは、死ぬまでに行きたい世界の絶景、の著者詩歩さんです。

現在24歳の彼女は、大学時代に友人と行った海外旅行先で、生死の境をさまよう事故に遭い、どこも観光することなく帰国したことがきっかけとなり、死ぬまでに行きたい世界の絶景、の写真を集め、フェイスブックで紹介したところ63万人以上が「いいね」の大ヒット。その反響で、昨年8月1日に書籍化が決定しベストセラーとなり、現在はテレビや雑誌等多方面で活躍しています。

与論島も彼女の本「死ぬまでに行きたい世界の絶景日本編」で紹介されており、それがきっかけで7月30日テレビ朝日の「グッドモーニング」で放映されました。撮影の為、初めて与論島を訪れた彼女も、砂浜の白さや百合ヶ浜の美しさ、海の色や透明度に感動したと語ってい

ました。

その後も、9月21日夜7時放送の「グイブーそれマジ?」ニッポンでも紹介され、ボートが浮かんで見える映像は、死ぬまでに行きたい絶景、として大きな反響がありました。

ここ数年、相次ぐ大型台風の襲来による激甚災害もありましたが、マスメディアに与論島が数多く取り上げられ、観光客数も東日本大震災以前に回復し、増加傾向にあります。

これから、死ぬまでに行きたい世界の絶景、として、観光客が多く訪れる美しい島となりうるかは、今後の私達与論島民次第と言えます。

10年20年後、また詩歩さんが「死ぬまでに行きたい世界の絶景」として、与論島を紹介して頂けるような島で有り続けることを願い、今回与論島を広く紹介するきっかけを作って頂いた詩歩さんへ、感謝の言葉を贈りたいと思います。
「ニッシーク トートウガナン、(まことにありがとございます)」

発行：与論町：編集総務企画課

〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花32-1

TEL 0997-97-3111 FAX 0997-97-4197

WEB: <http://www.yoron.jp> E-Mail: sy-kouhou@yoron.jp